

日程第２．一 般 質 問

○議長（倉又 稔君）

日程第２、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

古川 昇議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。〔８番 古川 昇君登壇〕

○８番（古川 昇君）

おはようございます。

市民ネット２１、古川であります。

発言通告書に基づきまして一般質問を行います。

１、地域包括ケアシステム構築に向けて。

厚生労働省は、第６期介護事業計画以降を「地域包括ケア計画」と位置付けました。６期の３年間でなく、団塊の世代全員が後期高齢者になる２０２５年に向け、危機感を持って取り組むことを自治体に呼び掛けております。

しかし、介護保険事業計画だけで地域包括ケアシステムが実現できる訳ではありません。地域の高齢者の生活に直結する市の高齢者施策の大きな柱であり、市がどのような「わが町」を目指しているのか、地域包括ケアシステムを実現させるためにどのような施策を展開していくのかが、そこに示されます。地域ぐるみのネットワークや体制づくりであり、その構築のためには地域の課題を把握し、使える資源や有効な人材を見つけ出していくことであります。地域ケア会議を通した地域課題の把握や社会資源の発掘が重要であります。以下、伺います。

(１) 高齢者生活調査による地域ごとの生活実態から得た課題の分析とデータの活用についてお伺いをいたします。

(２) 在宅介護に重点を置いた介護方針が示されましたが、現状で抱えている課題は何かお伺いをいたします。

(３) 今年の４月から介護保険制度が改定され、地域包括ケアシステムの構築に向けたサービスの充実施策として、次の項目がスタートいたしました。現状と予定についてお伺いをいたします。

在宅医療連携拠点の整備と多職種による「チームケア体制」についてお伺いします。

認知症初期集中支援チームの設置と医師会との協議についてお伺いをいたします。

地域ケア個別会議の経過と推進会議の進め方について伺います。

(４) 新しい総合事業実施は平成２９年４月となっております。要支援者への説明、あるいは体制整備の進み具合などの今後の予定についてお伺いをいたします。

(５) ８月に実施されました一定以上所得者の自己負担２割と補足給付要件の追加による高齢者への負担増の影響についてお伺いをいたします。

以上で１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

古川議員のご質問にお答えいたします。

１点目につきましては、生活実態についての結果を分析し、課題を解決するため、高齢者施策の検討に活用しております。

２点目につきましては、本人は在宅希望が多く、家族は施設志向が多い傾向にあることが課題であります。

３点目の１つ目につきましては、多職種連携に関する拠点として、糸魚川地域在宅医療推進センターの設置を、医師会が主体となって検討しているところであります。

また、医療と介護のチームケア体制については、糸魚川地域在宅医療連携協議会の活動を通じて、顔の見える関係づくりが構築されつつあります。

２つ目につきましては、平成３０年度の設置を目標としており、医師会との協議を始めているところであります。

３つ目につきましては、今年度から総合事業移行に伴い、要支援者の支援を目的といたしました地域ケア会議を実施いたしておりまして、この会議の集約及び課題整理を地域ケア推進会議で行ってまいります。

４点目につきましては、今後、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と相談しながら、対象者へ丁寧に説明してまいります。

また今後、事業所説明会を開催し、関係機関とともに体制整備を進めていく予定であります。

５点目につきましては、制度改正に伴う負担増加により、これまで使っていたサービスを減らす利用者がいることが懸念されます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もでございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○８番（古川 昇君）

２回目の質問に入らせてもらいます。

最初であります。地域包括ケアシステム構築のためには、まず、自分の地域の現状と課題、これを知ることが不可欠であります。地域のどのあたりに何人の高齢者が生活をして、それをもとに将来を予想する手法として厚生労働省が進めているのが、日常生活圏域ニーズ調査であります。この調査を実施したのは一昨年の９月だったと思いますけれども、高齢者の生活調査というふうにやったと思うんですが、これで間違いないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

おはようございます。

お答えいたします。

平成25年9月に実施いたしました高齢者生活調査につきましては、市内全域の高齢者の生活実態を把握して、高齢者に対して地域でともに助け合う体制整備、及び市の支援制度について検討を行う基礎資料とするために実施したものでありまして、この調査につきまして、ニーズ調査の1つになっていると捉えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

この圏域ニーズ調査に当たるものだということであります。市内全域で、地域別に考慮して実施したというふうにあります。生活全般にわたった調査でありましたけれども、そのデータ、集計、分析して、今お聞きをしましたけれども、それぞれの担当課とどのような共有をして、この回答結果を活用されてこられたのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

今回の高齢者生活調査につきましては、多岐にわたる関係課、平成25年度の中では都市整備課、福祉事務所、商工農林水産課、企画財政課、健康増進課というふうに多岐にわたっておりまして、全庁で課題を分析し、解決策について検討し、具体的に取り組めることは関係課でさらに協議をして、取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

今回の調査については、2週間にわたって聞き取り調査ということですので、その内容は非常に私は濃いもんだというふうに思っております。それぞれ担当課で分析をされたのをもとに個別課題、あるいは地域課題の施策づくりにどう反映されてこられたのか、この点についてお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

+

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

例えば外出支援でありましたら、ダイヤまたは路線の見直しを地元の方と協議をいたし、見直しを行っております。また、わかりやすい時刻表であるとか路線図の作成につきましても、実施をしているところでございます。

また、福祉事務所のほうでは高齢者の応援ブックというところで、除雪業者の業者名、または買い物で宅配をしていただけるような業者、また地域包括支援センターの紹介をした応援ブックを作成しておりますし、商工農林水産課のほうでは、まごころ宅配サービス店の一覧を一番初めに取り組んでいる事業でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

それぞれ担当課で分析をされて、反映されたものもあるように、今、伺いいましたが、大きな課題として、ここは重要なんだというふうに捉えていて、まだそこが進展してない、そういうところの担当課、何かございますか。あればお聞かせいただきたいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

今現在、特に山間地におきましては外出支援、また、除雪の問題が大きな課題であるというふうに捉えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

まだまだあるようでありますので引き続いての分析、これを施策に生かしていただきたいと思えます。

私は今回この調査によりまして、予防の観点で2つお聞きをしたいと思っております。

今回の調査であります、対象が75歳以上の高齢者の方々でありますので、地域においては見守り、あるいは何らかの支援が必要な年齢層であります。

具体的にお聞きをいたしますが、食料品や日用品の買い物、これらについては、今後、利用したいサービスで商店の配達サービスと移動販売と答えた人が45.8%いらっしゃいます。現在、このサービスは実施中であると思えますけれども、利用状況、問題点など現状をお聞かせいただきたい

いと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

おはようございます。

当課のほうにおきましては、移動販売の支援事業を取り組みをさせていただいております、平成27年1月より要綱を設置しまして、この8月まで実施しております。

その状況でありますけれども、移動販売は2台による移動販売車で実施しております、8カ月間で延べ1万3,000人、360日間、1日の平均にしますと2台で約73人の方のご利用をいただいているところであります。移動販売事業としては非常に厳しい状況でありますし、といいながらも多様なサービスの提供をしながら、何とか移動販売事業に取り組んでいただいているという状況を確認しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

まず、配達サービスの現状についてお伺いをしたいと思います。これはパンフレットをつくって、これを配布をされたわけでありまして、この利用状況。私は決してこれを皆さん、こぞって参加をされているというふうには、いろいろお話をお聞きしますと、なっていないというような状況であるかと思うんですね。行政はそれを知って、さらにその上の施策を何か打たれたのかどうか、この点についてもお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

まごころ宅配サービス一覧表は、今のところ100店舗協力をいただいております。青海地域、能生地域の商工会、糸魚川の商工会議所の皆さんからのご協力いただいて、一覧表をつくり上げたものでありますけれども、今、議員言われるように本当によく使われているかというところにつきましては、少し疑問があります。といいながらも福祉関係におきましては、ヘルパーさんがあの一覧表を使って、お年寄りのお店の紹介をしたりという効果も見られてるわけでありまして、もう少し一覧表を使った普及に、また、お店の方からも地元消費というところから、商店の皆さんからのご協力いただかんところはあろうなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

これにつきましても買い物に対して非常に難度が高い方々が利用するというので、私は非常に

いい施策かなと思うんですが、これを利用するに当たって、今、課長に伝えていただきましたが、その点についてもきちっとこれからやっていただきたい。

ここにいる方々は買い物難民という、ありがたない言葉に象徴されているわけではありますが、出かけられないとすれば、先ほど言われました移動販売というのも非常に有効な私は手段だと思います。これを今現状、少しお話をいただきましたけれども、やっていただいているその業者の皆さんに、あるいはそこに働いている皆さんに、行政はどのような支援があるのか、あるいは状況はどうなのかというのは、きちっとお聞きになっていらっしゃるかどうか、現状をお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

前の一般質問のときにもお答えいたしましたけども、私も実際に冬場、移動販売車の後について小滝のほうまで状況を確認しております。それから、ことしの1月から要綱を設けまして、補助事業として取り組んでいるわけでありまして、昨年の1月から3月までの実績の報告、あるいはこの4月から1年間の事業の計画等を業者から聞いている中におきましては、やはり非常に今の補助金の支援事業では、なかなか厳しいという状況はお聞きしております。

それから市が設けております補助要綱の基準に満たないけども、取り組んでいただける事業者もあるというふうにお聞きしておりますので、そのところについても検討の課題でないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

大変補助金では厳しいというふうな話、これは私も伺っているところでありますが、支援がそれだけでいいのかということも私はあるかと思います。

行政の皆さんについては、1回、2回ということではなくて、実態をきちっと知るところから、まず始めていただきたい。その上で、この事業が成り立っていくのかどうか、このところを私はつかんでほしいと思うんですね。もし、これがだめになったというふうに想定をしますと、今、言われている人数がありましたが、約600軒の皆さんが利用されているんだ。これからも来てくれという地域もあるというふうに伺ってはいるんですね。この点についても行政の考え方を聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

先ほども申し上げましたけれども、今、制定しました要綱の中で不都合な部分、それから基準に満たないけども、提供していただいている業者の方もおるやに聞いておりますので、そういうところ

も含めまして、しっかりと現場の意見を聞いて、検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

ぜひお願いしたいと思います。

移動販売がもたらす効果ですよね。これはいろんなところであらわれているんだろうと思いますが、行政としては地域の支援事業として成り立っているとの感覚、おありでしょうか、お聞きをいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

中山間地が多いこの地域の中で、この1月から補助要綱を設けてサービスの提供をしてきているわけでありまして、全部クリアしてるかといいますと、まだ検討の余地はあるというふうに考えておりますが、1点、その移動販売の最中に野菜を庭先集荷という格好で、去年の8月から11月までの4カ月間、庭先集荷に取り組んでまいりました。市内全域で10集落で、農家の数でいいますと、12件の出荷農家の方々から庭先集荷に対応していただいとるところであります。

ある部分、高齢の皆さんが野菜をつくっても無駄にしている部分を、庭先集荷によって少しでもお金にかえられる。それがまたある部分、生きがいにつながるんじゃないかなというふうに考えておりますし、取り扱っていただいております青果市場のほうの状況をお聞きしますと、集荷してきた野菜は、全て翌日きれいに競りに出て、購入されているという状況もお聞きしておりますので、農業サイドの観点からも一生懸命つくられた農産物を無駄にしないで、少しでもお金にかえていただけるという庭先集荷の取り組みについては、まだまだ強化していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

ぜひ、そのところをお願いをしたいと思います。

高齢者の皆さんが、生きがいというふうなところまでつながるかどうかわかりませんが、しかし、自分のつくったものがお客さんところへ届いている、この感覚だけでも私は違うんじゃないかというふうに思います。

そこで、県のたしか補助金があったと思うんですが、これはまだ継続をされておりますか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

市のほうが補助金をいただいて実施しているということじゃなくて、糸魚川の地域振興局の農林振興部と連携をする中で、県予算の中で対応していただいておりますし、今年度も継続をしていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

今年度なくなったというふうに聞いておりますが、ここのところは間違いないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

継続しているというふうに聞いておりますけども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

これはご本人から直接聞いたのでありますので、多分おそらく、ことしは切れたんではないかなというふうに思うんですが、後で調べておいていただきたいと思います。

それから次、今度は健康についてお伺いをしたいと思います。この設問も、これは第6でしょうかね、ありましたので伺います。

健康診断を受けていますかという問いに対して、毎年受診というふうに答えた人が459人、二、三年に1回というふうな方が51人。問題は、受けていない人が494人です。理由であります。定期的に病院にかかっているのが、心配がないという人が418人です。健康だからと言い切っている人が40人です。

この結果から見て、受けていない人たちの中で一番多い健診に行かない理由が、定期的に病院に行っていると、かかっているということが具体的にわかったわけですが、この方々418人ですね、あるいは健康だからという人に、直接その場でどういう原因だったのかということはお聞きになったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

調査の段階で、具体的な理由についてはお聞きするところではやっておりませんでした。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○ 8 番（古川 昇君）

せっかくその場において当人、あるいはその家族と、直接、お話になっているんでありますので、本当からいえば、こういう深いところは話の中でやっぱりお聞きすべきだったんじゃないかというふうに思うんですよね。きちっとそういう点も個々に捉えていれば、次の打つ手というのは、やっぱりはっきりしてくるんじゃないかと思います。仮に膝や腰、あるいは血圧が高いとか、足が痛いとかという理由で定期的に病院に通っているのであれば、私は特にこの人たちは、健診の重要さは理解してもらえるんじゃないかというふうに思うんですよね。一步踏み込んだ働きかけが必要だったんじゃないかと思いますが、この点について伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○ 健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

今、医療機関にかかりながら、特定健診を受けてないという方の対応についてでございますが、これまでは医師会を通じる中で、医療機関のほうにそういった働きかけをしてほしいということでお願いをしてまいりました。今後につきましても、そういった医師会を通じる中で、働きかけは継続してまいりますし、また、医療保険のほうのレセプトデータがデータ化されております。これらを活用する中で個々のご案内ができないか、また、かかりつけ医への個別のお願いができないか、そういった部分につきましては、今後、検討してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

古川議員。

○ 8 番（古川 昇君）

ぜひ、その点はやっていただきたいと思うんですよね。少しでもやっぱり健診率を上げたいということであれば、今、課長が言われたような個々に対して、あるいはお医者さんに対して直接と言いませんけれども、医師会の方々がどうやってやってるのか、やられているのかということも詳しく調査をしていただきたい。そうしなければ、ここはやっぱり上がっていかないというふうに私は思いますので、ぜひお願いをしたい。予防の観点では、この健診というのは非常に大事であります。

それから前期高齢者の健診受診率、現在、どのような傾向にあるのか。生活習慣病のリスク、あるいはがん検診、これの啓発に、この年代は特に呼びかけを強めてきたものと考えますが、成果があらわれているのかどうか、その点をお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○ 健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

前期高齢者の特定健診の受診につきましては、平成２３年度で４３．２％、平成２４年度が４５．８％、平成２５年度が５５．２％という形で、受診率については向上傾向となっております。

がん検診の受診率につきましても高齢者におきましては、これは平成２５年度だけの数字で大変恐縮なんですけども、胃がん検診が２２．３％、肺がん検診が３８．４％、大腸がん検診が３０．９％、乳がん検診は３７．９％、子宮がん検診が２０．９％というような状況で、こちらのほうについても、年々、向上している傾向でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

先ほどの庭先集荷の件で訂正をさせていただきたいと思っております。

平成２６年につきましては、糸魚川地域振興局の農林振興部におきまして、実証実験ということで取り組んでいただいた成果を私のほうで報告をさせていただきました。

今年度につきましては、青果市場さんのほうの事業者のほうで、主体的に取り組んでいただいているということで、補助事業等での取り組みは今年度してないということでございます。

訂正させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○８番（古川 昇君）

このがん検診についてであります。新潟日報ですね、これは５回にわたってシリーズで特集をされております。これは県内ではやっぱり受診率に対して、非常に皆さん苦慮しておられるというところがあります。

企業の協力というところも、これも大きく出されているんですが、糸魚川市においては企業の協力という点では、どのような協議をされてきたのか、連携をされてきたのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

まず、がん検診等につきましては、もちろん市がやらさせていただいておりますが、各医療保険者の中で人間ドックとか、そういった部分の中で含めた形でも実施しております。

医療保険者がやっております人間ドック等の数値につきましては、なかなか私どものほうにデータ等が来ない状況なので、把握が難しい状況でございます。

ただ、そうは言いながら市民の皆様方の健康の部分でございますので、重立った企業幾つかを訪問させていただいてどういった状況なのか、そういったものにつきましては、情報交換をさせていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

この中で先ほど言われた胃がんですね。これは非常に新潟県は高いということが指摘をされているわけですが、糸魚川市は20歳以上の方ですね、ピロリ菌の検査、これを集中的にやられたということなんですか、この経過ですね、ちょっとお話をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

ピロリ菌につきましては、詳細なデータについてはちょっと持ち合わせてないんで、後ほど言わせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

あらゆる機会を通じて健診の重要性、しつこく訴えていく必要があるとは思いますが、医療予防、介護予防の観点から、どうしたら生活習慣病、あるいは介護や認知症などにつながっていくリスクを抑えられるか。行政が訴えていく姿勢を、私は強く出していただきたいと思いますが、この点についてさらに取り組む方針があれば、お聞かせをいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

健診の重要性につきましては、私ども担当課としても十分承知をしてるところでございます、これまでも医師会を通じる、また、各種健康講座、健康教室、そういった部分の中で地道ながら、そういった周知に努めてまいったところでございます。

今後につきましては、特定健診を受けた方と受けない方、こういった先ほど申しました個々の医療保険のレセプトデータがデータ化される関係から、受けている方、受けない方の医療費の状況、そういったものを数値化することができますので、より市民の皆様にとりましてわかりやすい形でデータを示しながら、周知に努めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

データを見える化をしていくことは、非常に私は重要だと思いますので、ぜひともそのところをお願いしたいと思います。

ところで、この新聞、お読みになったことありますか。この新聞は8月11日に、「介護特集」と題して特集記事が掲載されたものなんですね。内容は、地域包括ケアシステムについて国の方針と姿、それと上越市、妙高市、糸魚川市の取り組みが紹介をされているんですね、この中に。

上越市は、介護予防の取り組みを生活習慣病予防に重点を置きまして、認知症予防にもつながることを強くこの中で打ち出しております。年1回は必ず健康診査を受けて、自分の健康の確認をするように訴えております。

妙高市も「ケアシステムとネットワークづくり」と題して、市のメッセージが出されております。

糸魚川市の内容は、「介護予防」と表題をつけた割には、施設や取り組みの紹介が中心で、一生懸命取り組んでいる割には、内容がなかなか伝わってこないというふうな紙面になっておりました。介護職を目指す人への支援、キャリアアップ支援は大切な私は施策だと思いますが、しかし、市の考え方、市民になぜ介護予防が大事なのか、重要なのが明確に伝わってこない紙面であると私は感じましたが、皆さんはどのように受けとめたか、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

この特集につきましては、事前に上越タイムス紙のほうから要請がございました。また、上越市、妙高市と内容が重複しないように調整いたしまして、市民の方に見やすく、わかりやすい内容に絞らせていただいております。この内容につきましては、十分市民の方に伝わっているというふうに考えております。また、市民の方からは、わかりやすかったという声もいただいているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

介護予防ということになりますと、糸魚川市の考え方ですね、ここをきちっと私は出してもらいたかったというのがあります。

上越3市の施策、方針が一堂に紙面に載ったということでもありますから、見方によっては、比較された方もいらっしゃるのではないかと思います。「介護予防」と表題されていたわけですので、介護予防は糸魚川市では最も力を入れている取り組みであって、介護に陥らないように生活支援をして、自立を目指すことを第一に据えて、医療予防も健診をしっかり取り組んで、運動機能が衰えても支援をします。買い物、身の回りを含め支える体制を整えます。いざとなったら施設もあります。みんなでお互いに力を出し合って、住みなれた地域で暮らし続けていきましょう。これが糸魚川市の高齢化社会を支える、地域包括ケアシステムの目指す姿なんです。皆さん、安心して

年を重ねてください。このぐらいのことは、やっぱり私は強烈に出すべきではなかったかと思うんですが、市長のお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々はそのつもりでやっておりますので、そのように受けとめられなかったということは、やはりその辺をこれからも気をつけてやらなくちゃいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

新聞等々を見られて好意的な感想もあったということでもありますので、そこはありますが、私はやっぱりきちんと市の考え方はどこにあっても、特に、こういう上越全般にわたる紙面に、訴えていくべきではなかったかなというふうに思っております。

それと同時に、今度は市民が介護保険の理念、これをしっかりと理解をしていなきゃやっぱり私はいけないと思うんですね。そうしなければ保険制度の運用は、私はできないというふうにも思っております。

この介護保険の保険法第4条には、市民の努力義務というのが載っております。給付を受ける国民みずからが、介護予防や心身の状態の維持、改善に努める義務があること。これは簡単に言うておりますけれども、そういうふうにならされているんですね。ですから行政、あるいは保険者として支援はしますが、市民の方々、国民もやっぱりそれに向けて自分の健康を管理していく、維持向上させていくという義務があるということも、やっぱり市民に対して私は強く出すべきだと思うんですが、この点について考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

市民の方の義務として健康づくりを自分で担うというところにつきましては、いろいろな教室の中で市民の方に、お話をさせていただいているところでございます。なかなか健康づくりというところでは、ご自分ではわかっているけれども、なかなか実践が伴わないというところもございます。行政としての働きかけを、もっと頑張ってもらいたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

大変申しわけございません。

先ほどお問い合わせがございましたピロリ菌のほうの関係につきまして、若干、お話をさせていただきます。

昨年度、20歳代ということで対象を絞りまして、395名の方に検査を受けていただいております。そのうち陽性ということで、おられるという判断が出たのが38名、率でいきますと約9.6%というような状況でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

次に移ります。

介護保険事業計画の中で基本目標の3に、ことし新たに介護家族の支援、これは介護者の健康支援ということで明確に盛り込まれましたが、この書かれている精神的な不安あるいは肉体的、負担軽減をするのに教室を開いたり、あるいは相談会や交流会で健康づくりの各種健診に結びつけるといふようになっておりますが、新たに掲げた経過ですね、これをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

第6期の介護保険の計画を策定するに当たりまして、要介護者の家族、またはご本人さんに対してアンケート調査をいたしております。その問いの中で、介護、介助を受けている方のみ、主にどんな方から介護、介助を受けていますかという質問、その中には妻または息子、女性の介護ヘルパーというような内容。また、60歳代の6割強が老老介護の状況であるというようなアンケート結果も出ていることから、介護者の健康について、計画の中で明確に示すということで挙げさせていただきました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

要介護者を介護している方々、これはアンケートということでありますので調査をしたデータですよ。これは詳しいかどうかよくわかりませんが、今ほど言われた老老、あるいは息子さんが介護、娘さん、あるいは妻、夫、いろんなところで回答があったんだと思うんですが、その方の年齢、あるいは仕事をしているかどうか。そこをさらに一歩進めて、具体的に介護者の肉体的、精神的不安を把握する必要があるんじゃないかと思うんですね。介護者が何を望んでいるのか

把握することが、私は先決だと思うんですが、この介護者のデータですよね、どういうふうを活用されるのか、この点についてお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

アンケート調査とは別にいたしまして、介護のサービスを受けるにはケアマネジャーがついております。サービスの調整をしながら、またご本人さんの状況、また家族の状況も十分把握しながら、サービスの調整をさせていただいてるところでございます。

また、ケアマネジャーにとりまして、なかなか困難事例というのがございます。その場合には、地域包括支援センターのほうに相談が寄せられまして、事例検討する中で、どのようなサービスを使っていけばいいのか、また、介護者に対しての支援はどのようにあるべきかというところを、個々において対応させていただいてるところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

こここのところ、今、いろんな回答をいただいておりますけれども、私はその情報、曖昧なままであれば、やっぱり共倒れ、あるいは介護離職、あるいは認認介護というようなところに、私はつながっていく危険性を抱えているのではないかと思います。

そこでお聞きしたいのは、今現在、全国的に多重介護という問題が大きな注目を浴びております。1人で2人の介護、あるいは2人以上、場合によっては家ではご主人を介護して、実家のご両親も見ているケース、これは糸魚川にも実際にあります。こういった多重介護状態の介護者のデータ、これは把握されておられるのでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

全体で何件ぐらいあるかというデータの把握はしておりませんが、先ほども申し上げましたとおり、サービス調整をするケアマネジャーのほうで把握しているものというふうに考えております。また、困難事例としても市のほうにも報告はございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○ 8 番（古川 昇君）

ここは私は難度ということになると、大変な問題を抱えている方々ばかりだろうと思うんですが、いくら人数が少ないといえども、きちっと調査をしていただきたい。特に、在宅介護というところからすると、私は住みなれた環境で介護を優先するって、これは第一義であります。在宅を支える介護者、これもやっぱりきちっと具体的に組みを組みを決めていただきたいと思うんですね。在宅介護が支える側から崩れない取り組み、ここについてはどんなお考えをお持ちなんですか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

在宅で介護する場合、介護者にとっては不安がいっぱいあるかというふうに思っております。そのためにはケアマネジャーもいらっしゃいますし、地域包括支援センターの相談窓口もございます。市での窓口もございます。そのあたり、なかなか敷居が高くて来れないという方もいらっしゃいますので、今後は地域包括支援センターの周知も含めて、周知してまいりたいと考えております。以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○ 8 番（古川 昇君）

次にいきます。

この であります。在宅医療連携拠点の整備、多職種によるチームケア体制、これは私、こういうふうに思っているんですが、違うかどうか。

在宅医療連携拠点とは、中・重度者の在宅ケアを支えるために、介護職の在宅現場での対応について、医療、看護、リハビリ等々専門職が事例検討、あるいはアドバイスを医療サイドで行う機関というふうに考えているんですが、この点についていかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

医療が中心というわけではございませんで、在宅で生活する上では医療も大事、介護も大事、その中で医療関係の従事者、介護に関する従事者が顔の見える関係で、その介護されてる方が自宅で安心して暮らせるようなチームワークをつくるチームだというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○ 8 番（古川 昇君）

これ連携拠点ということでもありますので、お医者さんがいるということになるんでしょうが、日常の介護現場の S O S を受けとめて医師と看護師、直接、その場でサポートしていく体制、これは必要かと思うんですが、この体制を整えていくという考え方なんでしょうか。同時に、直接情報が必要となれば、これは時間的なこともあります、I T 機器の導入がなければ、私は実現は不可能だと思うんですが、前回、市長が答えられましたけれども、チームケア体制とは、そのことを指しているのかわかるのかどうか、この点についてお伺いしたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

まず、医療と介護を連携する中で、在宅医療推進センターというものの立ち上げを、今、医師会のほうで検討していただいているところでございます。その中で医療と介護の連携をどのようにやっていけばいいのか、また、前回もお話させていただいたかと思えますけれども、医療、介護の連携の中で、ひすいプロジェクトというものがございます。それにつきましては、県の糸魚川地域振興局が主体になってやっておりましたけれども、平成 28 年度からは市のほうに移行する予定になっております。その部分で、どのように取り組めばいいのかということ、今、検討してるところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○ 8 番（古川 昇君）

全国的には、これ制度上でいいますと、ことしの 4 月にもうスタートしているわけでありましたが、実施は、まだこれは平成 30 年 4 月というふうに決まっております。

今ほど言われた在宅医療推進センターが、恐らくこれが拠点になっていくんだろうと思いますが、もう 1 つは、今言われたひすいケア・カフェですね、多職種の方がいろんな研修をされているということなんですけど、それぞれのところでやっているものが、いわば土台づくりとして今やっているんだと。当然、この 30 年 4 月には、ここのところは間に合わせていくというスケジュールを組まれているのかどうか、大変重要なところですので、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

平成 30 年実施に向けて取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

医師会との協議ですね、これは大変労力の要るところだろうと思いますけれども、医師の皆さんもやっぱり今、介護あるいは在宅の医療というものに大きく考えをシフトされているっていうところもありますので、ぜひ頑張っていていただいて実現をお願いしたいというふうに思います。

2つ目であります。認知症のケアパスの作成、普及、これは同時に求められております。事業計画にも示されておりますけれども、作成内容からすると複雑な印象なんです、簡単にさっさとできるような問題ではないように私は思うんですが、この中身と、それから今後、どういうふうにこのケアパス、非常に重要な施策でありますけれども、実現していくのか、見通しを教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

まず、認知症初期集中支援チームでございますが、平成30年の実施を目標にしております。その中ではお医者さん、それとほかに保健師、または社会福祉士などの専門職からなるチームでございますが、糸魚川市内におきましては、お医者様になかなか負担をかけるということが、難しいというふうに考えております。認定医につきましても、現在、お1人の先生になっていただいております。その中で、認知症の研修も実際に受けていただいている先生もございますが、まず、その研修をたくさんの先生に受けていただくということと、専門チームの構成につきまして、また医師会のほうと十分協議してまいりたいつもりでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

今言われましたように、お医者さんとの話は大変厳しいというふうに思います。

糸魚川で実現しようとするれば、私はやっぱり糸魚川総合病院との協議、これが私は欠かせないと思うんですね。医師会ということで糸魚川総合病院との関係ですね、この認知症に関して、初期の集中支援チーム、これを立ち上げていくというような突っ込んだ協議がされているのかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

現在のところ糸魚川総合病院との協議はいたしておりません。

以上でございます。

実施するに当たって、どういうところで担っていくのが一番いいのか、これはまた時間の中で協議を進めていただきたいと思います。

それと、この支援チームでありますけれども、これは市町村事業のどこに入るのか、どこが担っていくのか、お聞かせをいただきたいと思います。平成30年4月ということではありますが、この状況からすれば間に合うかどうか、もし医療と介護の連携がはかどらない場合は別の方策があるのか、その点もお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

医療と介護の連携につきましては、保険者であります行政が主体になってやる事業であるというふうに考えております。

また今、それがかなわなかった場合というお話でございますが、かなうように努力してまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

これは地域支援事業の中に入っていくんだろと思いますが、この集中支援チームですね、認知症の方々からすると非常に期待をしているところなんですよ。ですから、ここのところがやっぱり早期に立ち上がって認知症の方々をきちっと見ていく体制は、私はぜひとっていただきたい。ここのところを間に合うようにしていただきたいというふうに思います。

次であります。

地域包括ケアセンター、個別の問題がある場合に、その都度やっているということでもあります、ケア会議ですね。必ずこれは行政の皆さんが出席されているのかどうか、会議での役割はどんなものか、その経過を教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

ケア会議につきましては、必ず行政が参加しておりまして、指導、助言を行っているところでご

+

ざいます。

また、この地域ケア会議につきましては、あくまでも個別のケース会議でございまして、個別の問題の解決に向けて解決策を練っているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

お話をお聞きしてますと、会議の内容は報告を求めるのでありますが、様式は統一してほしいというような要望もあります。それから今言われたように個々の問題を、地域包括ケアセンターでやっている問題が取り上げているんだということのお話でありますけれども、私はその中ではやっぱり行政に持ち帰って回答しなければならない。いわば調整機能ですよ、この点もやっぱりあるんだろうと思いますが、この点、調整機能を果たしておられるのかどうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

地域ケア会議で出された課題につきましては、十分行政のほうで問題解決に向けて取り組んでいるところでございます。また、そのときに解決できなかった場合にも、地域包括支援センターのほうにお返しするような形になっております。また、そのときに解決できない部分につきましては、今後の事業の取り組みにもっていきたいというふうに考えているところでございます。

また、活動の報告書でございますが、地域包括支援センターから地域活動報告書というものがございまして、それは各地域包括支援センター、統一した報告書になっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

今のお答えで、それを続けて、今度は推進会議ということになるわけですが、今度はそこで政策に打ち出していく、あるいは課題をきちっとまとめていくという全体の推進会議。推進会議であります、これは行政が主催をして、行政が主体的に進めていくということで考えてよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

推進会議については、行政が中心になって開いていく予定にしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

こういう地域のケアシステムを進めていく上では、非常に中心的役割を果たしてほしいというのが地域包括ケアセンターだろうと思うんですが、ここも今5カ所で行われておりますけれども、業務内容、あるいは範囲ですね、支援対象者、求められる支援策、あるいは人員等から体制を分析されたことがあるかどうか。

これは厚生労働省から、この地域包括支援センターの役割が大事であって、現状、今後求められる役割を精査して、機能強化を図れというふうに指示が出てると思うんですが、この点についてお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

地域包括支援センターにつきましては、県のほうで調査がございました。その中で、例えば専門職1人当たりの人口、または専門職1人当たりの第1号被保険者数を見ましても、ほかと比べまして多いというわけではないというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

（4）に移ります。

ここの総合事業ですね、これは平成29年4月ということでもう進められております。これは今までも総合事業は、これは地域支援の事業の中にあつたわけでありましたが、新しい総合事業ですね、介護予防生活支援サービスと、一般介護予防というふうに今度は分かれたわけでありまして。基本チェックリストによるもの、それから非該当となった人ですね、これを含めて、これを全部詰めて総合事業という中に持っていったわけでありまして、今進めているこの事業でありますけれども、あと1年半の余裕があるんですが、この事業者サイドの協力、スタートするに当たって、実施をするに当たって協力。行政は国の方針どおりやっていくというふうに思うんですが、相互理解は進んでいるのか、総合事業を実施するに当たって各事業所、あるいはそれぞれの機関との調整はとれているのか、この点についてお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

- 福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

新しい総合事業実施に向けましては、行政だけではやることはできません。そのためには地域包括支援センター、また、居宅介護支援事業所、また、委託を受けていただきます事業所の調整が必要になっているというふうに思っております。また、今月の末には、事業所に対して説明会をする予定にしておりますので、こちらのほうの趣旨も十分説明してまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

古川議員。

- 8番（古川 昇君）

そうしますと、予定どおり進めるということであると考えます。

上越市は既に事業を実施しておりますが、参考事例として、これは検討余地に値すると思うんですが、この点についていかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

- 福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

上越圏域の中で上越市、妙高市、糸魚川市で、介護保険に関する担当者レベルでの会議も実施いたしているところでございます。上越市のほうからは随時、情報収集をしておりますし、上越市内の通所介護事業所に行きまして、研修もさせていただいてるところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

古川議員。

- 8番（古川 昇君）

これはボランティアの方々も含めて体制をつくって非常に厳しいところではありますが、総合事業に移る訪問型、通所型サービスであります。これは要支援1・2の方で、そこにどう入っていくのか。これは市としても、保険者としてやることはたくさんあると思うんですが、これは移行するに当たって、全体のそのものがそろわなければ移行できないのかどうか、この点についてお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

- 福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

全体がそろわなくても、そろっているところからの実施は可能でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

そうしますと、行政がどういうふう基準をつくっていくのかということですね。それから相当とAに分ける場合にどれだけの割合にするのか、これは非常に厳しいところだろうと思いますけれども、協議をきちっとやっていただきたいと思います。

新潟市はボランティアの方々をつくっていくのに民間の福祉団体と契約して、これを助成しようということをやっとるんですが、糸魚川はそんなことを考えることはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

先進地の事例もございますことから、その中で検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

どこもこのところ、支える体制については苦勞をしているようでありますので、きっちと他市の状況も見ていただきたい。

それから（5）に移りますが、この中でお聞きしたいのは、割合証を発行されたと思いますが、全体の通知数はどれくらいだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

要介護の認定者全員に発行いたしております。平成27年8月1日現在で3,197人の方に通知いたしました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

きのうの新保議員のところ随分出ましたので、ここのところ私、1点伺いたいんですが、

+

申請は１年間で１回だけなんじゃないかな。要は補足給付の割合の関係であります、預貯金が１，０００万円で今回減額となった人がいるわけですが、１，０００万円を割ったら、これは直ちに補足給付は復活するんですか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

預貯金の要件で該当にならなかった場合に、預貯金はその額に満たなくなった場合は、その時点で申請することができます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。

○８番（古川 昇君）

この点については１回ではない、そのときの状況によるということで、補足給付ですと低所得者の方に本当に目配りをしていただきたい、そういうふうに思います。

あと予防に関して、この点についてはきちっと力を入れてやっていただきたいことをお願いして、一般質問を終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、古川議員の質問を終わりました。

次に、吉岡静夫議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉岡議員。〔１５番 吉岡静夫君登壇〕

○１５番（吉岡静夫君）

吉岡です。お願いします。

通告書の順番で申し上げます。

１、高齢化社会。

「高齢化」に限ったことではありませんが、時の流れは私たちの誰にもどんな人にもいろいろな問題をもたらします。「高齢者」もその１つ、「一人暮らし」「病身」「ケガ」「貧困」などなど。

なかでも、それらの「弱さ」の遠因の１つとされるのが「高齢化」。ここ数年来、社会の「高齢化現象」への流れは急激さを増してきました。

であればこそ、「公」が、「市」が対応すべき最重要課題は、そういった社会を構成している一人ひとりの市民が抱え込まざるを得ない「高齢化」「一人暮らし」「病身」「ケガ」「貧困」など、いわば誰もが、どんな人でも抱え込まざるを得ないその「弱さ」に向き合うことが最重要課題。それこそが「住みよいまちづくり」の足元・根っこ。

そこで、今回は、以下いくつかを項目化して伺います。